

ペット受け入れのための避難所等運営 ガイドライン

平成29年12月

広島県健康福祉局食品生活衛生課

目次

1 平常時の対策	1 P
(1) 避難所でのペット受け入れの検討	
(2) ペットの飼育場所の設置の検討	
(3) 基本的な飼育管理方法の作成	
(4) 飼い主・住民への周知・啓発	
2 災害発生時のペットの受け入れ	8 P
(1) 同行避難者の誘導	
(2) ペット同行避難者の届出	
(3) ペット飼育者名簿の作成	
3 避難所における動物の管理	10 P
(1) ペットの飼育管理	
(2) 避難所住民への情報提供	
(3)トラブル発生の防止と対応	
4 災害時における動物救護活動について	13 P
(1) 県及び市町等の役割分担	
(2) 災害時における動物救護活動に関する情報収集・発信	
5 参考資料	15 P
(1) 災害時におけるペットの救護対策ガイドライン（環境省）	
(2) ペット飼育に関するQ&A（仮設住宅に入居された方向け）	
(3) 参考様式・参考例	

はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災など、これまでの大規模災害の経験から、飼い主とペットについては、動物愛護だけではなく、被災者の心のケア、被災動物の野生化による危害防止の面からも、同行避難（※）することが合理的であると考えられるようになってきています。この考えに基づいて、平成25年6月に、環境省から各自治体等が地域の状況に応じた独自の対策マニュアルや動物救護体制を検討する際の参考となるよう「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」が示されました。

また、平成26年8月には、広島市での集中豪雨に伴う土砂災害や、平成28年4月14日には、熊本地震が発生し、災害に対する動物の救護や同行避難に関しての体制を整備することがますます重要となっています。

本県では、『広島県地域防災計画』や、市町それぞれの『地域防災計画』の中で、災害が発生したときにペットとの同行避難を動物の災害対策の基本として位置づけ、災害時におけるペット対策を進めており、飼い主に対しては、災害発生時に円滑な同行避難が実施できるよう、十分な準備を行うことや、動物が地域の一員として受け入れられるよう、地域社会との円滑なコミュニケーションを行うことを啓発しています。

この度、市町などの避難所設置主体、自治会等が、同行避難者の受け入れ体制の整備を検討する際の参考にしていただくために、「ペット受け入れのための避難所等運営ガイドライン」を取りまとめました。本ガイドラインを活用いただき、同行避難者の受け入れ体制の整備が推進されることを期待しています。

なお、ガイドラインは基本的な考え方を示したものであり、ペットの受け入れは災害の種類、被害の大きさ、被災者数、地域性などによって条件が異なりますので、各避難所等でその場の状況に応じて柔軟性のある対応をお願いします。

平成29年12月

広島県健康福祉局食品生活衛生課

同行避難とは

○災害発生時に、飼い主が飼育しているペットを同行し、避難場所まで安全に避難することです。同行避難は避難所での人とペットの同居を意味するものではありません。

～人と動物が安心できる「今」のために～

1 平常時の対策

災害は、いつ発生するかわかりません。平常時から被災した際の対策を講じておくことが大切です。

(1) 避難所でのペット受け入れの検討

ペットの受け入れが可能かどうかは、避難所の設置場所や規模、避難所の構造・設備等避難所ごとに異なります。広い敷地や複数の建物がある避難所であれば、ペットの受け入れも容易ですが、小規模な避難所などでは受け入れが困難な場合があります。

ペットの同行避難者の受け入れができない避難所では、混乱を避けるため、近くにペットの飼育が可能な代替場所がないか検討しておきましょう。（日頃から、避難所におけるペットの同行避難の可否に関する周知を徹底したり、避難訓練の内容に盛り込んだり、など事前の対策が重要です。）

(2) ペットの飼育場所の設置の検討

避難所で生活する人の中には、動物が苦手な方やアレルギーを持っている方もいます。

また、ペットの鳴き声や臭いは、避難者間のトラブルの原因となります。避難所でのトラブルの発生の防止のためにも、ペットの飼育場所の設置には次のことに考慮する必要があります。

<ペットの飼育場所を設置するにあたり考慮すべきこと>

- 避難者の居室と隔離した場所（※）
 - 避難者の動線と重ならない場所
 - 可能な限り室内の場所
 - 必要に応じて、動物種ごとに飼育場所を分離
- ※身体障害者補助犬は避難者の居室に同伴することが可能です。

① 屋内に飼育場所を設置する場合（設置例1）

鳴き声や臭いに十分配慮した上で、飼育場所を設置しましょう。屋内で飼育する場合は、ケージを使用した飼育管理が原則です。

音楽室のように防音設備のある部屋や、体育館の倉庫などの活用も考えてみましょう。

【留意点】

- ・ 同行避難者（飼育者）は動物の近く
- ・ 非飼育者は動物の遠く
- ・ 鳴き声・臭い等の苦情を考慮



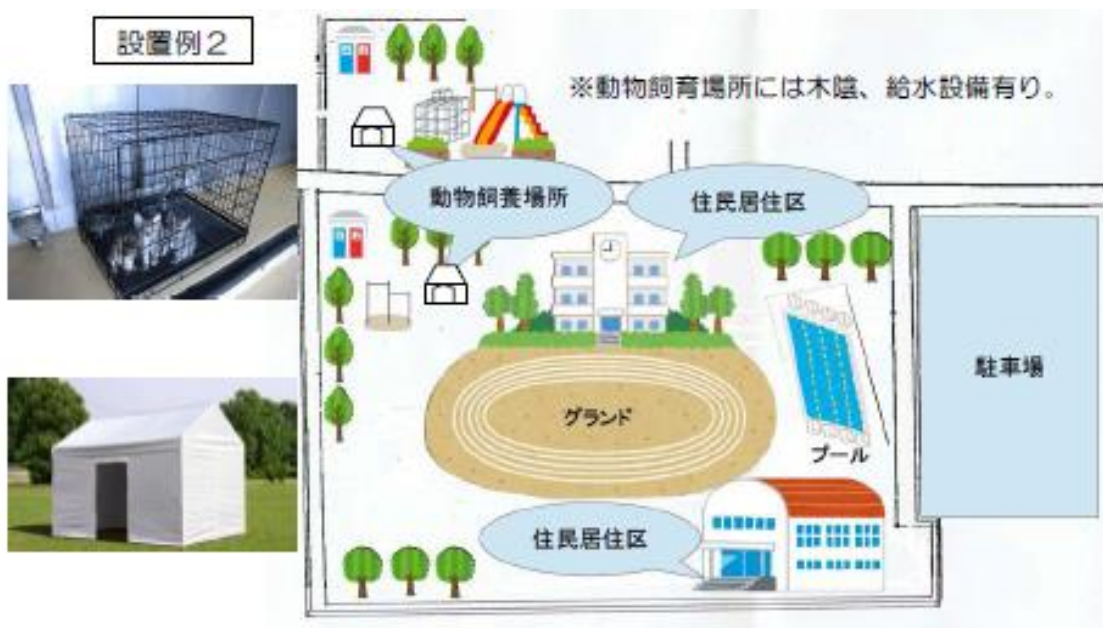
② 屋外に飼育場所を設置する場合（設置例2）

人通りの多い通路や施設の入り口など動物がストレスを感じる場所は避けましょう。また、動物が適正に飼育管理されるように水道設備などの近辺に設置したり、日照・風雨を避けられるよう木陰やテントが設置できる場所を選定するのが良いでしょう。

屋外で飼育する場合も、屋内同様にケージを使用した飼育管理が原則ですが、やむを得ずつないで飼育する場合は、鉄棒などの遊具を利用することもできます。

【留意点】

- テント、ケージ等の設置場所を給水設備の近くや木陰のある場所に設置
- 気候の影響を受けやすいので、動物の体調管理には注意が必要



(3) 基本的な飼育管理方法の作成

避難所にいるペットの飼育管理は、飼い主が責任をもって行うことが原則です。

避難所でのペットによる人への危害の防止や環境衛生の維持のため、基本的な飼育管理のルールについては、飼い主が責任を持って行うよう、あらかじめ避難所の設置者や責任者を中心として作成しておきましょう。

<避難所の設置者や責任者においてあらかじめ決めておきたいルール>

- ペットの散歩の方法やその時間帯, コース
- ペットへのエサの与え方
- ブラッシング等トリミング場所の指定
- 糞尿等の汚物の処理方法
- ペット関係用品の保管場所
- トラブル発生時の責任者への報告方法 など

(4) 飼い主・住民への啓発・周知

① ペットとの同行避難のための飼い主への啓発

スムーズなペットとの同行避難の実施や、他の人の迷惑とならないように避難所でペットとともに生活するためには、飼い主さんが十分な準備をしておく必要があります。

日頃から、市町発行物や回覧物などで、ペットの飼い主に対してペットの災害対策を講じておくよう啓発しておきましょう。

<ペットの災害対策のための主な準備>

- 所有者明示をしておくこと
迷子札や、犬の鑑札・狂犬病予防注射済票、マイクロチップなど
- 基本的なしつけをしておくこと
ケージやキャリーバックでの生活に、日頃から慣れさせておく
- ペットの健康管理をきちんと行っておくこと
狂犬病予防注射や感染症予防のワクチンの接種、不妊去勢手術の実施など
動物手帳やカードに記録しておくこと便利です。
- ペットの飼育場所の安全を確認しておくこと
小屋やケージ、鎖やリードの強度の確認
- ペットに必要な物資を備えておくこと
【必要なもの】
 - ケージ □療法食、薬（必要なペットには必ず用意）
 - 5日以上以上のフードと水、食器
 - 予備の首輪、リード（伸びないもの） □トイレ用品
 - 飼い主の連絡先やペットの情報を記録したもの【あると便利なもの】
 - ペットシート □洗濯ネット（猫の逃げだし防止など）
 - 好きなおもちゃ □においのついたタオル
 - ブラシ □ガムテープ □新聞紙
 - ブランケット（ペットの体を包める大きさ）など

② ペット受け入れ避難所の周知

ペットの受け入れが可能な避難所を選定したら、住民に周知しておきましょう（参考例1）。そうすることで、ペットの飼い主が同行避難をする場合に、どの避難所に向かえば良いのかが分かり、結果としてペットの受け入れができない避難所にペットを連れて避難者が集まるなどの混乱を避けることができます。

ペット同行者専用避難所とそれ以外の避難所が設定できれば理想的かもしれません。

なお、平常時のペットの災害対策や避難所でのペットの基本的な飼育管理のルールについても併せて周知しておきましょう。

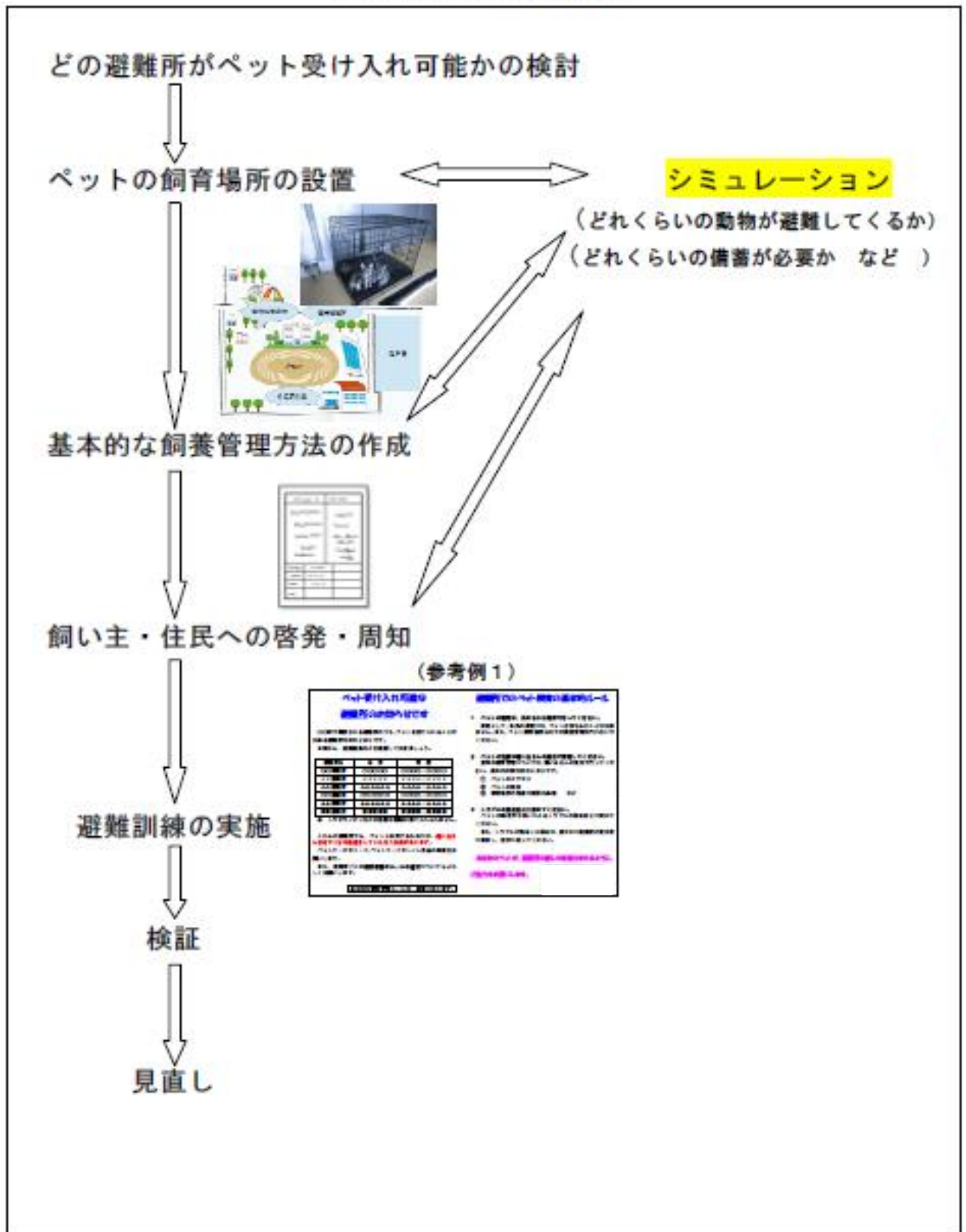
避難訓練の際に、ペットとの同行避難を想定して訓練するとさらに効果的です。

<ペット受け入れ避難所の周知チラシ 例>

（参考例1）

ペット受け入れ可能な 避難所のお知らせです			避難所でのペット飼育の基本的ルール																					
<p>〇〇町で開設される避難所のうち、ペットを受け入れることが出来る避難所は次のとおりです。</p> <p>日頃から、避難経路などを確認しておきましょう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>避難所名</th> <th>住所</th> <th>電話</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇避難所</td> <td>〇〇〇〇〇</td> <td>〇〇〇〇-〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>××避難所</td> <td>×××××</td> <td>××××-××××</td> </tr> <tr> <td>△△避難所</td> <td>△△△△△</td> <td>△△△△-△△△△</td> </tr> <tr> <td>□□避難所</td> <td>□□□□□</td> <td>□□□□-□□□□</td> </tr> <tr> <td>▲▲避難所</td> <td>▲▲▲▲▲</td> <td>▲▲▲▲-▲▲▲▲</td> </tr> <tr> <td>■■避難所</td> <td>■■●●●</td> <td>■●●●-■●●●</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ トラヤライオンなどの危険な動物は受け入れられません。</p> <p>これらの避難所でも、ペットと生活するためには、飼い主さん自身で十分な準備をしていただく必要があります。 ペットケージやリード、ペットフードやトイレ用品の準備をお願いします。 また、避難所ごとの飼育管理のルールの遵守についてもよろしくをお願いします。</p>			避難所名	住所	電話	〇〇避難所	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇-〇〇〇〇	××避難所	×××××	××××-××××	△△避難所	△△△△△	△△△△-△△△△	□□避難所	□□□□□	□□□□-□□□□	▲▲避難所	▲▲▲▲▲	▲▲▲▲-▲▲▲▲	■■避難所	■■●●●	■●●●-■●●●	<ol style="list-style-type: none"> 1 ペットの飼育は、決められた場所で行ってください。 原則として、住民の居室には、ペットを持ち込むことは出来ません。また、ペット飼育場所以外での飼育管理は行わないでください。 2 ペットの世話は飼い主さんの責任で実施してください。 通常の飼育管理については、飼い主さんの責任で行ってください。具体的な例は次のとおりです。 ① ペットのエサやり ② ペットの散歩 ③ 飼育場所の清掃や糞尿の処理 など 3 トラブルの発生防止に努めてください。 ペットの鳴き声や臭いによるトラブルの発生防止に努めてください。 また、トラブルが発生した場合は、速やかに避難所の責任者に報告し、指示に従ってください。 <p>あなたのペットが、避難所の癒しの存在とされるように、 ご協力をお願いします。</p>
避難所名	住所	電話																						
〇〇避難所	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇-〇〇〇〇																						
××避難所	×××××	××××-××××																						
△△避難所	△△△△△	△△△△-△△△△																						
□□避難所	□□□□□	□□□□-□□□□																						
▲▲避難所	▲▲▲▲▲	▲▲▲▲-▲▲▲▲																						
■■避難所	■■●●●	■●●●-■●●●																						
<p>基本的な飼育管理ルールは、裏面にあります。</p>																								

<平常時の対策の流れ>



～人と動物の災害発生時のために～

2 災害発生時のペットの受け入れ

(1) ペット同行避難者の専用窓口への誘導と飼育場所の設置

災害発生時に避難者がペットと同行避難をしてきた場合、ほかの避難者への危害を防止する観点から、ペット同行避難者専用の受付窓口と飼育場所を設置し、そちらへ誘導するようにしましょう。

また、同行してきたペットについて、飼い主からペットに関する情報を聞き取り、受け入れに問題ないと判断されるまで、動物の飼育場所へ連れて行くことは避けましょう。

(2) ペット同行避難者の届出

飼い主とペットの状況を把握することは、避難所の円滑な運営やトラブル発生防止のために重要です。

動物の飼育状況の把握のためにも、避難所での受付時に、飼い主にペットの状況について届出をしてもらいましょう（参考様式1）。また、その際には、避難所での動物飼育管理のルールを周知しましょう。

届出により、受入可能な動物であれば、ペット个体識別票を渡して、ペットケージなどに貼り付けてもらい、さらにペットにも迷子札などの所有者明示を施し、避難所での飼育管理に役立てましょう。

(3) ペット飼育名簿や飼育当番表の作成

避難所責任者等は、円滑な避難所運営と、トラブル発生時の迅速な対応のため、飼い主の届出をもとに動物の飼育状況について、名簿にまとめておきましょう（参考様式2）。また、飼い主同士でペットの世話ができるよう、ペット飼育当番表（参考様式3）があると避難者同士のコミュニケーションにも役立ちます。

3 避難所における動物の管理

(1) ペットの飼育管理

避難所でのペットの飼育管理は、飼い主の責任で実行するものです。

ペットの飼育管理をスムーズに行うことができるよう、あらかじめ、ペットの世話の当番表やチェックシートの作成を検討しておきましょう。

<チェックシートに記載する必要物資の例>

- ペットフード、水（動物種ごと・年齢ごと・療法食等別ごとなど）
- 動物用医薬品等
- 首輪、リード等、食器
- トイレ用品（ペットシート、猫砂、ペーパースコップなど）
- その他（タオル、新聞紙、ブラシ、洗濯ネット、ビニール袋など）

(2) 避難所での避難者への情報提供

避難所でのペットの飼育状況について、その避難所での避難者への情報提供を行いましょう。特に、ペットの飼育場所や飼育管理の方法について周知しておくとともに、ペットにもストレスがかかっていることなどから、避難者への危害防止のため、動物に安易に近づかないように、掲示板での貼り紙やチラシ、回覧板などで啓発しておきましょう。

<ペット受け入れ避難所の掲示物の例>

(参考例 2)

〇〇避難所の皆さまへ

〇〇避難所では、次の場所で避難してきたペットを飼育しています。

飼育場所の地図

ペットもストレスにより不安を感じています。
飼い主さん以外の人がむやみに近づかないようにしてください。

〇〇避難所でのペット飼育についての代表者は次の人です。
飼育代表者：〇〇 〇〇

- 飼い主の方へ
避難所は、共同生活の場です。飼い主の人の迷惑にならないように、ペットの飼育ルールをきちんと守りましょう。
- 飼い主以外の方へ
ペットも災害を生き延びた命です。飼い主さんが責任をもって管理していますので、おたがひ目で見守ってあげましょう。
- ペットに関する相談
ペットに関する相談やトラブルについては、飼育代表者または避難所責任者にお知らせください。
飼育代表者：〇〇 〇〇
避難所責任者：△△ △△

(参考例 3)

ペットの飼い主の皆様へ！

避難所では、多くの人たちが避難生活を送っている中で、ペットの飼い主の皆様は、そのことを守って避難生活を送ってくださいます。

- ① 避難所設置業者の指示には必ず従ってください。
- ② ペットは動物としての場所です。アーゴ動物の心の中に人としての、同じく動物としての居場所。リードなどにつなげて飼ってください。
- ③ 避難場所の場所は、飼い主さんからの許可で確保し、保護の観点で活動をさせてください。
- ④ ペット飼育場所や保管場所の避難所設置スペースへ入らぬようにしてください。
- ⑤ 避難所ではペットもストレスの軽減から、避難所暮らしの不安を軽減させることのできるため、適切な処置を施すように十分配慮をお願いします。
- ⑥ ペットの感染症など健康上の懸念が軽減しないように飼ってください。
- ⑦ 動物の健康上の危険を防ぐため、適切な処置をさせてください。
- ⑧ 生き残った動物はその健康状態が不明なため、衛生管理などに十分注意をお願いします。
- ⑨ ノミやダニの駆除に努めてください。
- ⑩ 避難所がラッシュアワーは、必ず動物の健康を優先して飼ってください。
- ⑪ 他の避難所などとの間でトラブルが生じた場合は、速やかに避難所設置業者まで相談してください。

〇〇設置業者本部
〇〇設置業者
〇〇〇〇〇〇〇〇〇

(3) トラブル発生の防止と対応

避難所での動物飼育に伴うトラブルの発生防止やその解決のため、飼い主の中から動物飼育管理に関するペットグループの代表者を指定しましょう。

原則としてトラブルの解決は、個人で対応せず、グループ全体の責任で対応するようにしましょう。また、重大なトラブルや避難所運営に係るトラブルについては、避難所責任者等と協議して対応することとし、その対応状況と結果については、その避難所の避難者全体に周知するように努めましょう。

4 災害時における動物救護活動について

(1) 県及び市町等の役割分担

県内で大規模な災害が発生した場合に、動物による人への危害防止、動物の愛護及び管理のために行う動物の救護活動等を円滑に実施するためには、県、市町、関係団体等が役割を分担する必要があります。

【県の役割】

① 人への危害防止対策

県動物愛護センターは、動物による人への危害防止の観点から、状況に応じて被災地での逸走犬の収容を行うとともに、特定動物等の飼養者に対して緊急の連絡を行い、必要な対応を行う。

② 動物救護本部及び地域支部（動物救護施設）の設置・運営

被災地の情報を収集・分析し、被災地における動物等への対応が必要と判断する場合、動物救護本部及び地域支部（動物救護施設）を設置して、県獣医師会、動物愛護団体等と連携・協働して動物救護活動にあたる。

【市町の役割】

① ペットの飼育場所の確保・運営

避難所等における飼い主とともに同行避難してきたペットの飼育場所を確保するとともに、避難所等における動物飼育に伴うトラブルの発生防止に努める。

② 動物救護本部及び地域支部（動物救護施設）の支援

避難所等におけるペット飼育状況の情報提供を行うなどして、動物救護本部及び地域支部（動物救護施設）の活動を支援する。

(2) 災害時における動物救護活動に関する情報収集・発信

国や県、関係団体が実施する被災動物救護活動が円滑かつ効果的に実施されるには、動物の飼育状況に関する情報や飼い主への情報発信が不可欠となります。

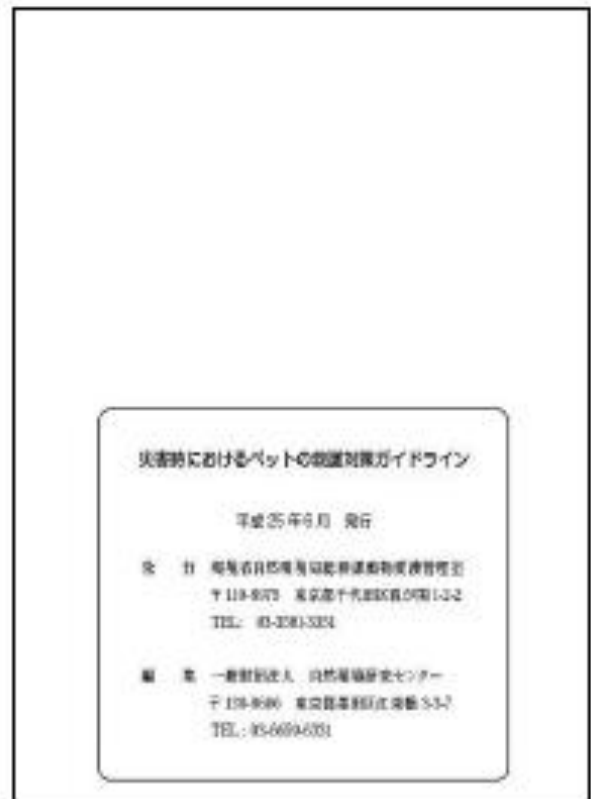
このような情報収集・発信については、避難所の責任者が、被災動物救護活動に関する情報を住民に周知するとともに、避難所ごとの動物の飼育状況や動物救護活動についての要望などを取りまとめ、被災動物救護活動の調整役である県の動物救護本部に情報を提供してください。

また、災害発生時には、逸走して飼い主とはぐれた動物や所有者の分からない動物が多数発生することが予測されます。このような動物を速やかに保護し、飼い主へ返還するためにも、避難所責任者は、飼い主から聴き取った逸走動物の情報や、放浪している動物の目撃情報を県に報告するとともに、災害時における動物救護活動に伴って保護された動物の情報を避難所に掲示板を作成するなど、情報提供をお願いします。

5 参考資料

(1) 災害時におけるペットの救護対策ガイドライン

(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2506.html)



(2) ペット飼育に関するQ&A（仮設住宅に入居された方向け）

Q 1 これまで外で飼っていたペットを室内で飼うことはできますか？

A 1 仮設住宅において室内飼育が認められている場合は、大型犬なども室内に入れてみましょう。意外とうまくいきます。東北でもかなりのケースで成功していますので試してみましょう。

Q 2 仮設住宅でペットを飼うときに健康面で注意することはありますか？

A 2 ペットも慣れない環境で暮らすのですから程度の差こそあれストレスを受けています。普段からペットをよく観察し異常があるときは動物病院に相談してください。動物から人に伝染する病気もありますから、かかりつけの動物病院で定期的に健康診断を受けましょう。

Q 3 ペットの所有者明示は必要ですか？

A 3 ペットが逃げ出してしまった場合、仮設住宅など慣れない環境では自力で戻ってくることは困難です。そのためにはぐれてしまったペットが飼い主の元に戻れるよう所有者明示をつけましょう。ペットに迷子札をつけたり、マイクロチップというデータベース化した情報から身元検索できるチップを皮下に埋め込む方法があります。（マイクロチップの埋め込みは動物病院での施術が必要です。）

*犬の場合、狂犬病予防法という法律で、市町村から交付された犬の鑑札と狂犬病予防注射済票を犬に装着しなければならない規定があります。必ず首輪などに着けましょう。

Q 4 仮設住宅で近隣の人に迷惑をかけないか心配です。

A 4 仮設住宅ではペットを飼っていない人や動物が苦手な人もいます。このような人たちにも気を配ってペットを飼う必要があります。ペットに関する苦情で多いのが鳴き声などの騒音とペットの発する臭いです。ストレスが多いと鳴く傾向が高まりますので散歩を十分に行ったり、触れ合う時間を多くとってストレスを発散させてあげてください。また臭い対策では、ペットの身体をきれいに保ち、ケージやトイレもこまめに清掃を行いましょう。

Q5 不妊去勢手術はしたほうがよいですか？

A5 発情期には雄雌ともに落ち着きがなくなったり、発情期特有の鳴き声を頻繁に発するなど普段とは全く違う行動をします。近隣の迷惑になる恐れがあるばかりでなく、異性を求めて逃げ出す事例も増えます。無事戻ってきたら赤ちゃんが生まれてしまったなどの問題が起きることも。特別な事情がなければ不妊去勢手術を行いましょう。ペットが年をとってかかる病気（精巣がんや子宮蓄膿症など）の予防にもなります。

Q6 不意な訪問客に犬が飛びかかってしまう恐れがあります。

A6 このような事例があるとお互いに驚いてしまいますね。悪くするとトラブルの原因にもなります。予防策として、県条例に定められた犬を飼っている旨の標識を玄関に掲示して、訪問客に注意を促しましょう。また、犬が飛びかからないように、日頃から「待て」や「伏せ」などの基本的な号令に従うようしつけを行ったり、室内に柵を設置したりして犬が飛びかからないようにしてください。万一、飼っている犬が人を咬んでしまったら、動物愛護（管理）センターに連絡してください。

Q7 犬の散歩時の注意点について教えてください。

A7 散歩時は、犬もうれしくて興奮しているので、仮設住宅の敷地内では犬が人を咬んだり、排尿するなどトラブルになる可能性があります。そのため敷地内では犬を抱きかかえる、引き綱を短く持って犬を制御するなど配慮が必要です。またビニール袋と水を入れたペットボトルを携帯し、排便はビニール袋に入れて持ち帰り、排尿は水で流すようにしましょう。

草むらなどで遊ばせると、ノミやダニをつけてしまうので動物病院で定期的に薬を処方してもらいましょう。犬についたノミやダニは、人にもうつるだけでなく、重篤な病気を引き起こす恐れがあります。

(3) 参考様式・参考例

<参考様式1：避難所同行ペット届出票>

<参考様式2：避難所ペット飼育状況一覧>

<参考様式3：避難所ペット管理等当番表覧>

<参考例1：ペット受け入れ避難所の周知チラシの例>

<参考例2：避難所住民へのペット飼育についての情報提供チラシの例>

<参考例3：ペット飼育場所掲示物の例>

<参考様式1：避難所同行ペット届出票>

(飼い主記入欄：太枠の中を記入してください。)

飼い主の情報	氏名				
	住所		電話		
動物の情報	動物の種類		品種		
	動物の名前		性別	オス ・ メス	
	特徴 (毛色等)		体格		
	疾病の有無	有 ・ 無	疾病名		
	ワクチン接種	・接種 (ワクチン名：) ・未接種 ・不明			
	不妊去勢措置	実施 ・ 未実施			
	犬の場合	狂犬病予防注射		鑑札番号	注射済票番号
		接種済み ・ 未接種			
マイクロチップ	有 ・ 無	個体識別番号			
特記事項					

受付窓口記入欄

避難所名		整理番号	
入所年月日		退所年月日	

<参考様式3：避難所ペット管理等当番表覧>

〇〇避難所ペット飼養管理等当番表

年 月

日	係	給水係	清掃係	保健係	連絡係	係	係
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							

ペット受け入れ可能な 避難所のお知らせです

〇〇町で開設される避難所のうち、ペットを受け入れることが出来る避難所は次のとおりです。

日頃から、避難経路などを確認しておきましょう。

避難所名	住 所	電 話
〇〇避難所	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇-〇〇〇〇
x x x 避難所	x x x x x	x x x x - x x x x x
△△避難所	△△△△△△△	△△△△△-△△△△△
□□避難所	□□□□□□□	□□□□□-□□□□□
▲▲避難所	▲▲▲▲▲▲▲	▲▲▲▲▲-▲▲▲▲▲
■ ■ ■ 避難所	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■-■ ■ ■ ■ ■

※ トラヤやライオンなどの危険な動物は受け入れられません。

これらの避難所でも、ペットと生活するためには、**飼い主さん自身で十分な準備をしていただく必要があります。**

ペットケージやリード、ペットフードやトイレ用品の準備をお願いします。

また、避難所ごとの飼育管理のルールの遵守についてもよろしくお願ひします。

基本的な飼育管理ルールは、裏面にあります。

避難所でのペット飼育の基本的ルール

1 ペットの飼育は、決められた場所で行ってください。
原則として、住民の居室には、ペットを持ち込むことは出来ません。また、ペット飼育場所以外の飼育管理は行わないでください。

2 ペットの世話は飼い主さんの責任で実施してください。
通常の飼育管理については、飼い主さんの責任で行ってください。具体的な例は次のとおりです。

- ① ペットのエサやり
- ② ペットの散歩
- ③ 飼育場所の清掃や糞尿の処理 など

3 トラブルの発生防止に努めてください。
ペットの鳴き声や臭いによるトラブルの発生防止に努めてください。

また、トラブルが発生した場合は、速やかに避難所の責任者に報告し、指示に従ってください。

あなたのペットが、避難所の感しの存在どなれるように、

ご協力をお願いします。

<参考例2：避難所住民へのペット飼育についての情報提供チラシの例>

〇〇避難所の皆さまへ

〇〇避難所では、次の場所で避難してきたペットを飼育しています。

飼 育 場 所 の 地 図

ペットもストレスにより不安を感じています。

飼い主さん以外の人がむやみに近づかないようにしてください。

〇〇避難所でのペット飼育についての代表者は次の人です。

飼 育 代 表 者：〇〇 〇〇

飼 育 代 表 者：〇〇 〇〇

避 難 所 責 任 者：△△ △△

〇 飼い主の方へ

避難所は、共同生活の場です。周りの人の迷惑にならないように、ペットの飼育ルールをきちんと守りましょう。

〇 飼い主以外の方へ

ペットも災害を生き延びた命です。飼い主さんが責任をもって世話していますので、あたたかい目で見守ってあげましょう。

〇 ペットに関する相談

ペットに関する相談やトラブルについては、飼育代表者または避難所責任者にお知らせください。

＜参考例3：ペット飼育場所掲示物の例＞

ペットの飼い主の皆様へ！

避難所では、多くの人たちが共同生活を送っていますので、ペットの飼い主の皆様は、次のことを守って避難所生活を送ってください。

- ① 避難所設置責任者の指示には必ず従ってください。
- ② ペットは指定された場所で、ケージ(檻)などの中に入れるか、同じく指定された場所で、リードなどにつないで飼ってください。
- ③ 飼育場所や施設は、飼い主さん自らが常に清潔にし、必要に応じて消毒を行なってください。
- ④ ペットを体育館や校舎等の避難所居住スペースへ入れないでください。
- ⑤ 避難所ではペットもストレスや興奮から、普段考えられない行動をすることがありますので、逃げ出したりしないように十分注意しましょう。
- ⑥ ペットが原因となる苦情や危害が発生しないように努めてください。
- ⑦ 屋外の指定された場所で必ず排便させ、後始末を行なってください。
- ⑧ エサを与えた後はその都度きれいに片付けて、衛生害虫などが発生しないようにしましょう。
- ⑨ ノミやダニの駆除に努めてください。
- ⑩ 運動やブラッシングは、必ず屋外の決められた場所で行なってください。
- ⑪ 他の避難者などとの間でトラブルが生じた場合は、速やかに避難所設置責任者まで連絡してください。

〇〇災害対策本部
〇〇避難所設置者
〇〇〇〇〇〇〇〇

ペットの受け入れのための避難所運営ガイドライン

広島県健康福祉局食品生活衛生課

〒730-8511

広島市中区基町10番52号

TEL 082-513-3103

発行 平成29年12月15日

広島県は「人と動物との調和のとれた共生社会」の実現を目指しています。